

障害者らのサツマイモ栽培収穫増へ

トラクター購入支援募る

障害者の就労支援事業所「Fee1」を運営する一般社団法人「はーとプロジェクト」（江南市赤童子町）が、事業所の利用者らが栽培するサツマイモの収穫量を増やそうと、新しいトラクターの購入を計画している。利用者の収入増につなげる目的だが、福祉事業としては負担が大きいため、クラウドファンディングで購入資金の支援を募っている。5月2日まで。

（近藤晶）



事業所スタッフと一しょにサツマイモの苗植えをする利用者ら。江南市前飛保町で。

Fee1では、農業分野での障害者の就労や社会参画を促し、自立を支援する「農福連携」に取り組んでいる。江南市内の耕作放棄地や休耕地を無償で借り、スタッフと障害者がサツマイモを栽培。JA愛知北とコラボした「さつまいもチップス」や干し芋に加工し、販売している。

事業所で常時働く障害者は10、60代の約25人。栽培から加工、販売まで工程を分業化することで、それぞれが障害の特性に合わせて働くことができる。

サツマイモは農薬や肥料を一切使わない自然栽培。借りている畑は総面積5・5畝と東京ドームより少し

JA愛知北とコラボした「さつまいもチップス」
江南市古知野町のJA愛知北江南支店で



広いが、市内55カ所に点在しているため、現在あるトラクター1台が畑から畑へ移動しながら作業する。トラクターは2016年に購入した中古で故障することも。サツマイモは霜が降りる前までに収穫するが、1台では作業が追いつかないため、手掘りせざるを得ず、予定の収穫量に届かないこともあった。

トラクターを2台体制にし、利用者の負担を減らす

とともに作業を効率化したと考えた。収穫量が増えれば、利用者の賃金が増え、生活を支える収入の安定につながる。同法人代表理事の大森秀樹さん(58)は「農家の手が足りない時に働くといった形では安定した収入につながらない。継続的に仕事がある農福連携を進めたい」と話す。

トラクターの購入費用は350万円。150万円の支援を募り、残りは自己資金などを充てる計画。クラウドファンディングサイト「READYFOR」＝QRコードで支援を呼びかけている。

事業所で干し芋に加工した商品「いもときんぎね」＝江南市尾崎町のきまぐれカフェで



江南の社団法人資金をクラファンで